

平成29年度 第2回西諸県地区採択地区協議会 主な質疑応答・協議の記録

教科	主な質問	主な回答
道徳科	○ 西諸地区あるいは本県の人、素材、地域性などを取り扱っている教科書はあったか。	○ 教材としては、日本文教出版の1者だけである。6年生の生命の尊さにおいて、口蹄疫が取り上げられ、殺処分を経て新たに命をつなぎ、畜産業の復興に取り組む姿が教材となっている。その他、参考の扱いになるが、学校図書において6年生の自然愛護の指導で、高千穂郷・椎葉山間地農林業複合システムが欄外に示されている。
	○ 「特別の教科」道徳では、考え、議論する道徳が話題にあがっているが、特に意識が高いと感じる教科書はあったか。	○ 考え、議論する道徳への転換という観点でみると、全ての発行者で工夫がみられた。中でも、特に、自分の生き方を振り返るための視点や自分なりの考えをはっきりさせるための意見の交換が活発化できる視点でみると、日本文教出版、光文書院、学研教育みらいに工夫がみられた。
	○ 別冊があるものとないものがあるが、子どもにとって、どちらが使いやすいか。	○ 1冊にまとまっているもののメリットとして、持ち運びがしやすいということと児童が紛失しにくいという点があげられる。別冊のメリットとしては、児童の考えや気付いたことを記述したり、学習を振り返って記述したりする欄が1冊よりも多くとれる点である。また、学習の足跡が残ったり、道徳性の変容を確認したりできる面もメリットとして考えられる。別冊があるのは、学校図書、日本文教出版、廣済堂あかつきの3者である。
	○ 指導する側がポイントを定めて指導できるなど、大事なところを簡潔にまとめているといった工夫のある教科書はあったか。	○ 挿絵や図版、写真が効果的に使われているという面でみると、光村図書、日本文教出版、学研教育みらいにおいて工夫がみられた。特別支援教育の観点からみると、全者ユニバーサルデザインという観点で工夫がみられている。
	○ 西諸県地区の各学校で、重点化を図って指導する際、配慮すべき点はないか。	○ 命に関わること、いじめに関わることについては、どの発行者も重点化されていた。教科書研究では、地域ならではの願いといったものについての工夫をみる必要があるという意見が出ていた。例えば、本地区の実態から各自治体、少子高齢化という問題があり、定住を促進するような施策も出ている。もう一つ、大きな課題として成人による自殺率の高さがあげられる。このような観点からみると、郷土愛、生命尊重、自己肯定感を育てることが必要であるという意見が出た。生命尊重については、全ての発行者で工夫がみられた。郷土愛については、日本文教出版、光文書院に工夫がみられた。自己肯定感については、日本文教出版と学研教育みらいについて工夫がみられた。
司会	主な意見及び採決結果	
○ 「特別の教科」道徳については、どの発行者がよいか。	<p>○ 説明の中で、一番名前が出てきたのが日本文教出版、次が学研教育みらい、特に、日本文教出版は口蹄疫が取り上げられているので、西諸県地区としては、これがよいと思う。</p> <p>○ どこの出版者もよい教材を扱っているが、何が決めてかかと考えると親近感、よその話ではなく自分の知っているところの話、郷土愛が大きなウェイトをしめると思う。また、日本文教出版は、写真をみて子ども本来の姿が出ていると感じた。</p> <p>○ 気になっているのは2冊あるが、口蹄疫のことや中身をみると日本文教出版がよいと思う。</p> <p>○ ほぼ皆さんと同じ考えだが、学研教育みらいも書き込んで考えることができ、1冊にまとめられてもいるのでよいのではないかと思う。日本文教出版は別冊があり、子どもたちが書いて、それを先生が確認する。先生が子ども達の思いを把握することや大きく書くことができるといったところがよいと思う。また、口蹄疫があり宮崎が取り上げられていることもよいことだと思う。</p> <p>○ 西諸県で生きていく中で口蹄疫など、子ども達がどういう状況におかれているのか、いじめなどそういったところもあるが、畜産の町でもあるので日本文教出版がよいと思う。ほとんどはイラストが多いが、日本文教出版は、写真が使われており子どもが見ても分かりやすいと思う。</p>	
○ 投票用紙に選定する発行者に丸を付けていただき提出をお願いしたい。	○ 全員提出。	
投票の結果、全員一致ということで、日本文教出版を選定する。		